

平成 28 年度末には、「富山県森づくりプラン」の計画期間(10 年) 及び、「水と緑の森づくり税」の課税期間(5 年)が終了することから、今年度から、これまでの森づくりの取り組みや森林の現況等を踏まえ、平成 29 年度以降の森づくりを検討することとしています。

1 森づくりを取巻く状況

(1) 松くい虫被害の激増

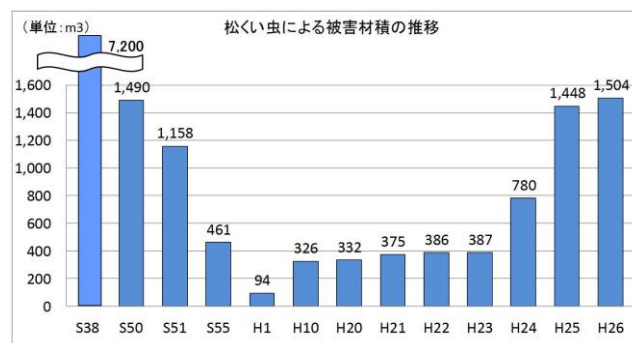
近年、海岸林等で松くい虫被害が激増。

(2) 「世界で最も美しい湾クラブ」への加入

平成 26 年 10 月、富山湾越しの立山連峰などの優れた景観などが評価され加盟。

(3) 全国植樹祭の開催

昭和 44 年以来、48 年ぶり 2 度目の開催が決定。



2 タウンミーティング (6/6 富山会場) での参加者からの主な意見

整備が必要な箇所が依然としてあることから、森づくり税を延長し、事業継続を希望する意見と、継続を前提とした事業内容に対する要望が、以下のとおり寄せられた。

- 野生動物による農作物被害を防ぐための里山林整備の継続。
- 里山林整備を継続していくための人材育成。
- 森に親しみ、森づくりを体験できる機会やイベントの開催。
- 美しい富山湾の松林を守るための海岸林保全活動への支援。
- 搬出コストが掛るため、林内に放置されている林地残材の利用。
- 竹林整備の継続と発生する竹材の有効利用。
- 富山の宝である優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の増産体制の確立。
- 自由な発想でユニークな森づくりが出来る、県民による森づくり提案事業の充実。

3 今後の予定

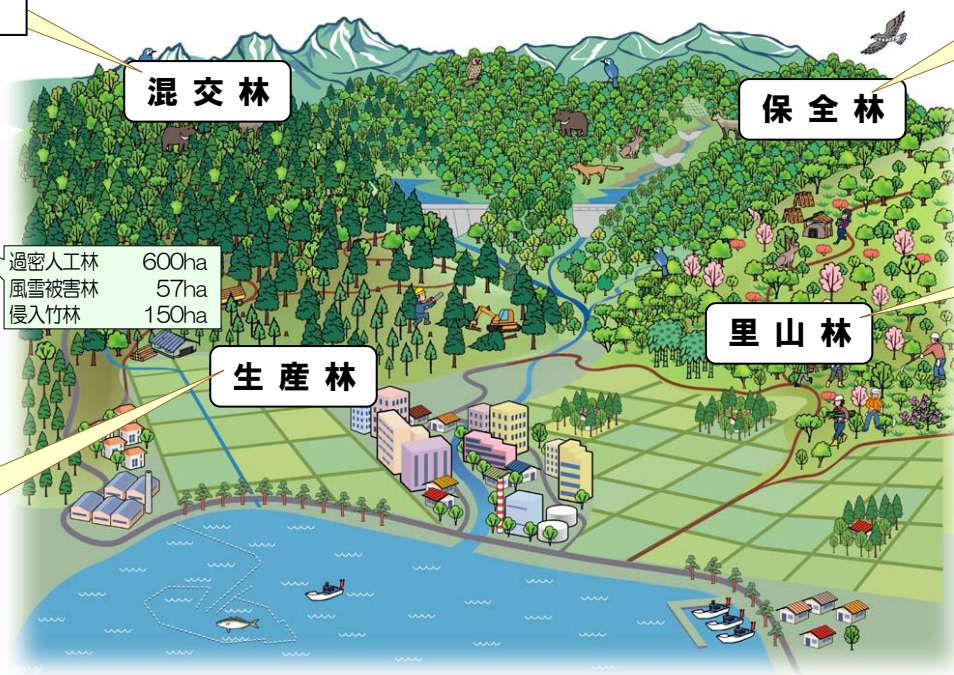
年度	内 容
H27	○森づくりタウンミーティング《今後の森づくりについて、県民の皆さんから意見を聴取》 ○森づくりに関する県民意識調査《県民等を対象とした森づくりについての意識調査》 ○水と緑の森づくり会議《県内各界の代表者から意見を聴取》
H28	○新たな森づくりプラン (案) の作成 ○プラン (案) に対するパブリックコメントの実施《県民の皆さんから意見を募集》 ○新たな森づくりプランの策定
H29	○新たなプランに基づく、森づくりの開始

「富山県森づくりプラン」(H19~28年度)の概要

参考

森林の整備及び保全の指針

森林の整備保全にあたっては、天然林を、「里山林」と「保全林」に人工林を、「生産林」と「混交林」に区分して取扱い、森林の状態や立地条件に加え、地域ニーズ等を反映した多様な森づくりを目指します。



木材資源の確保と公益的機能の維持・向上の両立

新たに

竹林が侵入した人工林を整備対象とします。

混交林の整備目標

前期実績(H19-23): 693ha
後期計画(H24-28): 807ha
合計(H19-28): 1,500ha



竹林が侵入したスギ人工林

持続的な木材生産に重点

原則として、自然の推移に委ね保全・保護

地域ニーズ等に対応した多様な里山林を、地域住民との協働により再生

里山林の整備目標

前期実績(H19-23): 1,296ha
後期計画(H24-28): 1,304ha
合計(H19-28): 2,600ha

県民参加による森づくりの指針

森づくりの推進にあたっては、計画、実行、評価、改善の各プロセスにおいて、幅広い県民の参加を得ながら進めます。

県民参加による森づくりの年間参加延べ人数

前期実績 概ね 10,000人
→ H28目標 12,000人

現在活動している森林ボランティア等については、森づくりサポートセンターによる支援により活動の継続・定着を図り、参加延べ人数の維持を目指します。

また、潜在的な参加意欲のある県民の新規参入を促進し、2000人の増加を目指します。

目標と実績

水と緑に恵まれた県土を支える多様な森づくりの推進

里山林の整備

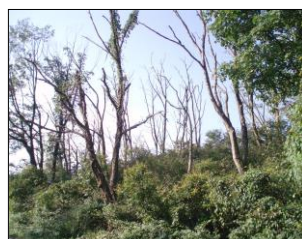
(単位: ha、本)

事業内容	区分	前期実績 H19-23	後期計画					目標 H19-28
			実績・見込み					
			H24	H25	H26	H27	H28	
里山林 整備	整備面積	1,296	260	237	318	282	207	2,600
	延べ面積		1,556	1,793	2,111	2,393	2,600	

混交林の整備

(単位: ha、本)

事業内容	区分	前期実績 H19-23	後期計画					目標 H19-28
			実績・見込み					
			H24	H25	H26	H27	H28	
混交林 整備	整備面積	693	165	148	112	108	274	1,500
	延べ面積		858	1,006	1,118	1,226	1,500	



被害を受けたミズナラ林の現況 (南砺市医王山)

花粉の飛散状況



左 無花粉スギ 右 通常のスギ

後期5年間の新たな取組み

(1) カシノナガキクイムシ被害地への実のなる木の植栽

カシノナガキクイムシによる被害を受けた奥山で、ミズナラやブナなどの「実のなる木」の植栽を行い、水土保全機能など公益的機能の確保や景観の保全、クマなど野生動物の餌場の確保などを図ります。

(2) 優良無花粉スギ「立山 森の輝き」の植栽

花粉症対策の一環として、スギ花粉飛散に強い影響を及ぼしている人工林の伐採跡地を対象に、本県で開発した優良無花粉スギ「立山 森の輝き」を植栽等するとともに、全国に向けた普及拡大を図ります。

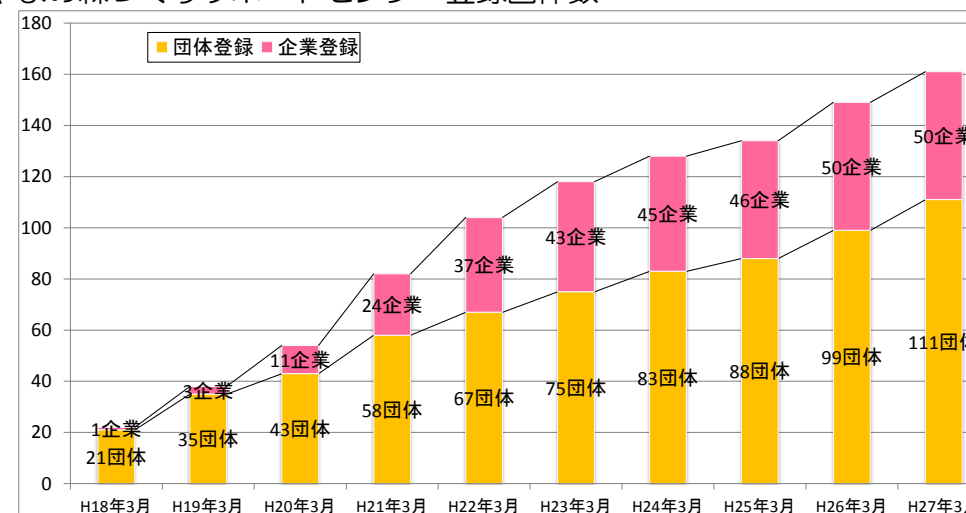
とやまの森を支える人づくりなどの推進

県民参加による森づくり年間参加延べ人数

(単位: 人)

年度	前期実績		後期計画			目標 H28
	H19	H23	H24	H25	H26	
森づくりの年間参加延べ人数	6,920	10,775	11,046	11,270	11,395	12,000

とやまの森づくりサポートセンター登録団体数



サポートセンターによる森づくり用機器の貸出し

県民参加の森づくりを推進するため、森林ボランティア活動への支援のほか、森林環境教育を行う「森の寺子屋」の開催や、森づくりにつながる県産材の利用促進、県民が自ら企画・実践する森づくり活動への支援等を実施します。